

## 序 文

20世紀後半における科学技術の飛躍的発展は、人類の生活を豊かにすると同時に、環境問題等の負の遺産も残しました。21世紀は、それらの負の遺産を克服しつつ、次の科学技術の発展を目指すことが強く求められています。

名古屋大学工学部では、このような科学技術の発展および新しい課題に対応するために、大学院重点化において「流動型大学院システム」と呼ばれる新しい教育研究組織を構築するとともに、いくつかの研究センターを新設してきました。これらの組織改革とその後の構成員の努力によって、工学研究科・工学部は教育研究面で多くの実績を挙げてきました。その成果が目に見える形で現れたのが、平成14年度21世紀COEプログラムにおける3件のプロジェクトの採択であり、大学評価・学位授与機構による教育評価において得られた極めて高い評価です。我々はこれらの成果に自信と誇りを持って、次の発展を目指していくべきであると思います。

一方、今後、大学の法人化や統合再編が進むなかで、我々を取り巻く状況は非常に大きく変化していきます。技術職員のあり方や組織も全学的に見直され、将来組織が再編されていく可能性もあります。そのような動きのなかで、技術職員の方々は、今後より充実した教育研究支援を行っていくために、その専門技術能力をさらに高めるための努力を継続的に行っていくことが必要です。

本技術部技術報告書「技報」は、上記のような状況のもとで、技術職員の方々が、業務のなかで達成した技術成果の報告と、その専門技術能力を高めるための一環として、自ら企画・実施した課題技術研修および学科技術研修の結果とをまとめたものです。本報告書は、技術職員自身の努力の成果の記録であると同時に、外部にその活動内容を発信する意味も有しています。本報告書をご覧になった方々には、是非いろいろご意見、ご批判賜れば幸いです。

最後に、本報告書の作成および技術研修の企画・実施に当たってご協力いただいた関係者の方々には、この場を借りて厚くお礼申し上げます。

また、技術職員の方々には、現在までの業務のなかでの技術研鑽や研修の成果を活かして、工学研究科の発展に尽力するとともに、引き続き組織的・個人的に自己研鑽の努力を続けてくださることを期待しています。

平成15年3月

工学研究科長・技術部長  
後藤俊夫